
E N D

あひる亭桃羽

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

END

【Nコード】

N1895G

【作者名】

あひる亭桃羽

【あらすじ】

最後までさよならが言えなかった一人の男の、本気だった恋の、
終わりのお話。

昨日と今日の境界線で、携帯電話が鳴った。

彼女からの電話だ。

陽気に電話に出た俺と、沈んだ彼女の声。

一瞬で悟った。

「ああ、終わった」と。

突然だった。

これ以上ないくらいに。

五年の歳月は、たった数分の電話で幕を閉じた。

呆気ないくらいに。

素っ気ないくらいに。

味気ないくらいに。

昨日までの景色が、セピア色に変わった。

最後まで、さよならは言えなかった。

言えないまま、電話は切れた。

揃いのリングを薬指から外した。

薬指が、異様に軽い。

一時も外さなかった、彼女からもらったペンダントをはずした。

首が、異様に軽い。

「ハートに空洞ができたようだ。」なんて、最初に例えた人は天才だね。

まさにその気持ち。

ハートに空洞ができたようだ。

言葉が 出ない。

涙も 出ない。

こんなに好きなのに。
こんなに好きなのに。
こんなに好きなのに。
こんなに好きなのに。

「愛情が情に変わった」と、あなたが言った。

痛かった。

とても、痛かった。

エグられるように、突き刺さった。

悲しい。

寂しい。

なのに、泣けない。

なのに、涙は出ない。

夢に、見るだろう。

現に、見るだろう。

握り締めた携帯電話の軋む音。

まるで、俺のハートが軋む音。

ハッピーエンドは幻だった。

悲しい幻だった。

夢？

これは夢…なのか？

それとも、今までの夢だったのか？

エンドロールもなにもない。

二人の物語は、

そつと始まって、

人知れず幕を閉じた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1895g/>

E N D

2011年1月25日02時34分発行